

履修コード/科目名称	143301 / 経営戦略論		
開講年度・期	2017年 通年	開講曜日・時限	火曜日 3時限
単位数	4		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	中村 公一 (ナカムラ コウイチ)		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	<p>経営戦略論は、現実の企業経営と密接に関連している実践的要素の強い科目である。受講生が企業に就職した時に、その企業が属する業界がどのように動いており、それに対応して企業が採っている戦略を理解することは、自分達の仕事の意義を考える上でも有効なことである。さらに、就職活動の時にも、希望する企業の動向を把握することは重要な選択要因の1つとなるだろう。</p>	
到達目標(ねらい)	<p>本講義では、さまざまな企業の置かれている環境とそれに対する経営戦略を理解し、実践的な場面でも応用できる知識と考え方を提供することを目標に進めていく。そこで、新聞やビジネス誌などをもとに、実際の経営戦略をケースとしてできるだけ取り上げるようにする。</p> <p>そして、なぜこの企業はこの戦略を採るのか、その戦略によってどのような効果が期待されるのか、ということに関して、古典から最先端の理論を使って解釈することを焦点に講義を行う。</p>	
授業スケジュール	第 1 回	なぜ経営戦略論を学ぶのか
	第 2 回	経営戦略とはどのようなことをテーマにしているのか
	第 3 回	経営戦略論の研究方法にはどのようなものがあるのか
	第 4 回	経営戦略論はどのように展開してきたのか
	第 5 回	経営戦略はどのようにつくられ実行されるのか
	第 6 回	最近の企業の経営戦略の特徴はどのようなものであるのか
	第 7 回	企業の活動範囲をどのように決めるのか
	第 8 回	企業はどのように成長していくのか
	第 9 回	企業はどのように競争していくのか
	第 10 回	競争で優位な状態をいかに持続するのか
	第 11 回	企業の活動の仕組みはどのようになっているのか
	第 12 回	最近の戦略課題 (1)
	第 13 回	最近の戦略課題 (2)
	第 14 回	最近の戦略課題 (3)
	第 15 回	前期のまとめ
	第 16 回	他の企業を買うとはどういうことかーM&A戦略 (1)
	第 17 回	他の企業を買うとはどういうことかーM&A戦略 (2)
	第 18 回	他の企業と一緒にした後にはどのような問題が発生するのかーM&A戦略 (3)
	第 19 回	複数の企業と協力する経営とはどういうものかーグループ企業の戦略
	第 20 回	企業が海外に進出する際の経営とはどういうものかーグローバル企業の戦略
	第 21 回	特定の地域にある企業同士の関係はどのようなものかー地域企業の戦略
	第 22 回	個人のもつ知識やスキルを組織で活用するにはどうしたらよいかーナレッジマネジメント (1)
	第 23 回	個人のもつ知識やスキルを組織で活用するにはどうしたらよいかーナレッジマネジメント (2)

	第 24 回	専門性の高い業務を組織内でどのように扱うのかー専門組織と経営戦略
	第 25 回	技術を革新するための戦略はどういうものかーイノベーション戦略
	第 26 回	企業を取り巻く利害関係者に対する戦略とはどういうものかーステークホルダー戦略
	第 27 回	無形資産を活用する戦略とはどういうものかーライセンス戦略
	第 28 回	最近の戦略課題（4）
	第 29 回	最近の戦略課題（5）
	第 30 回	総まとめ
準備学習	経営戦略論は、実際の企業活動と密接に関連しているために、日頃から新聞や雑誌などで関連する記事にはできる限り目を通すことが望まれる。	
履修上の留意点等	注意点としては、講義に対する妨害行為（私語、携帯電話など）には厳しく対処する。1人（数名）の愚かな行為により、他の真面目な学生に迷惑をかけ、講義自体の雰囲気が悪くなるために、教場を友人との話す場として考えている者は出席しないこと。	
成績評価の方法	70 %	試験
	30 %	レポート
		小テスト
		平常点
		年度末の定期試験（70%）、リアクションペーパー（2週間に1回程度・宿題として課す：30%）
教科書/テキスト	授業中にレジュメを配布して、それに基づいて講義を進める。1回の講義で1つの重要テーマに関する内容を学習する。基本図書や参考文献などは授業中にその都度指摘する。	
参考書 ▶ 図書館蔵書検索		
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	毎年度、受講者数が多い状況ではあるが、授業は私語もなく静粛に行われている。過年度のアンケートのなかに、リアクションペーパーの優秀作を知りたいというものが複数あった。その改善策として、毎回優れたものを実際にスクリーンに映してコメントをしている。また、スライドの変更スピードが少し早いという意見もあったので、受講生のノートをとるスピードも考えて行っていきたい。	
関連リンク		